

9.11 からはじまったグローバル・テロリズムの時代の幕明け アフガン、イラクでの「戦争」

その溢れかえるほどの報道の裏側で、忘れられていくアフリカ
10年前、世界の人々はそれまで名前も場所も分からなかったルワンダという国を知った
「虐殺と難民の国」として

当時のルワンダは、各国政府、国際機関、NGOによる「援助のデパート」状態
あれから10年が経った今、紛争後の国々の平和構築・復興支援が注目を集めている

日本は「復興支援」の名の下に、自衛隊をイラクに派遣している
イラクの「復興支援」には多額の資金が投入されることになっている

日本は10年前もルワンダ難民キャンプに自衛隊を派遣した
ルワンダでも多額のODAが使われた

しかしその後ルワンダの復興は成ったのか？ 平和は構築されたのか？
誰も答えない 問いかける人すらいない

アフガンやイラクの影で忘れられた国、忘れられた人々。

だがアフリカの貧困、低開発、統治の破綻にこそ、グローバル・テロリズムの温床がある
アフリカの平和と安定にこそ、越境する巨大な暴力を解決するカギがある

だから私たちはルワンダを忘れない

ARC - 2004年度の活動予定

(1) ルワンダ

a) 女性職業訓練活動支援事業

1994年の虐殺と内戦を経て、多くの女性たちは、夫や他の家族を失い、多くの扶養家族を抱えつつ、商売の制限、物価の上昇などの他の障害に直面しながら、生活を支えなければならなくなっている。とくに近年、ルワンダ政府は地方分権や貧困削減を柱にした政策を掲げ、(1)キガリ市の都市計画、インフラの整備を実施し、市場の整備なども手がけていること、(2)税収の確保に力を入れており、小規模の商売からも徴税しようとしていることから、路上で商売を営んでいる女性たちの経済活動の場がますます制限されている状況がある。本事業では、経済的自立をはかり、就業機会を拡大するための職業訓練を行う。このことにより、暴力的紛争を経た社会の安定化をはかり、生活者の経済社会的エンパワーメントによる、将来の紛争の再発予防に資する。

6ヶ月の訓練を20名(年間40名)に対し、洋裁技術の訓練を実施すること。また技術が修得されたことを確認するための修了試験を実施し、全員が修了試験を通過することを目指す。修了試験は実技と理論(筆記)試験両方実施しており、修了証書を発行することにより、受講生の就職機会を高める。

b) ARC ルワンダ奨学基金

ルワンダでは1994年の内戦・虐殺によって、多数の戦災孤児が発生した。また親をエイズで失ったエイズ孤児が増加している。2002年より、孤児院に入所する戦災孤児・エイズ孤児の就学支援を行っている。これを実施するうえで、1サポーター・1孤児支援という事業主旨のもと、日本の支援者に孤児たちの履歴、写真などを送り、双方向の国際協力を促進するものである。

支援金一口8000円につき、一孤児支援という事業主旨のもと、2004年度は約100人の孤児への就学支援を行う。具体的には学費、制服および学用品の経費である。

c) パナナ工芸品技術指導

本事業では、内戦による影響を被っている女性たちに対し、収入向上のためにパナナ工芸品製作技術指導の職業訓練を行う。これらによって、女性たちに新しい収入の機会を与えることによる実質的な収入向上、生活の安定に貢献し、難民、国内避難民、その他戦争災害の受難者の社会再定住を促進すると同時に、戦争によって絶望の淵に立たされた女性たちに、自信や誇り、未来への希望を見出させることを、本事業の目的とする。

具体的な事業の内容は、パナナ工芸品製作技術の指導および訓練修了生が仕事をするための作業スペースの確保である。本事業は、2003年5月から継続している事業である。

パナナ工芸品製作技術指導は、3ヶ月で10人、年間40

人に対して、パナナ工芸品(グリーティングカード)製作の指導を行う。この訓練は、読み書きのできない女性でも比較的短期で修得でき、設備投資を必要とせず、また、パナナ収穫後のパナナ樹皮という廃品利用で環境に負担をかけない製品である。

d) 孤児院施設支援

本事業の目的は、これら罹病、栄養失調になった孤児たちを支援することで、内戦によって疲弊した社会の再生と、将来の紛争予防への一助となり、ルワンダの平和の定着を促進することである。

本事業の協力団体であるGISIMBA MEMORIAL CENTERは、171人の孤児を受け入れている、この地域では大きな孤児院ではある。それにもかかわらず、水タンク(2000リットル)が3つあるだけで、安全な水の確保が難しい状況にあり、1日に3回、トラックで水の調達先を探している。よって同団体内に、水タンク(10,000リットル)を追加設置することで、収容孤児のほか、進学・就学対象者を含む収容児童の生活環境を向上させる。

e) コミュニティセンター建設

前年度より準備している、現地団体ARTCFとの協力による職業訓練、雇用創出、研修のための施設であるコミュニティセンターの建設を進める。

(2) リベリア

a) 調査計画書の作成

和平協定が締結され、平和構築途上にあるリベリアでの事業展開を目指すため、基礎調査を行うための計画書を作成する。

b) 調査資金の獲得

調査計画書に基づき、調査資金を模索する。

c) 現地調査

調査計画に基づく、現地調査を行う。

(3) 調査・研究活動

a) ルワンダのガチャチャ制度研究

虐殺加担者に対する国内裁判(ガチャチャ制度を含む)の進捗状況についての調査を継続する。

b) ルワンダの民主化移行研究

ルワンダ内戦後の民主化の移行状況について観測する。

c) ルワンダの除隊兵士問題調査

ルワンダの除隊兵士の再定住問題について、状況を継続的に調査する。

d) ルワンダの難民帰還・再定住状況の調査

ルワンダの帰還難民受け入れおよび再定住へ向けた取り組みについて状況を継続的に調査する。

e) 大湖地域の紛争状況

隣国のウガンダ、コンゴ(民)、ブルンジの紛争状況に

ついても、継続して観測し、現地の状況の日本国内での伝達に努める。

f) 児童兵士問題調査・研究

アフリカの紛争地域において深刻な問題となっており、

かつ冷戦後のアフリカの地域紛争問題がはらむ諸要素の具現化ともいえる児童兵士の問題について、問題の周知、国際社会への提言、児童兵士の再定住に向けて具体的支援策の3つの視点から調査・研究を行う。

ARCのルワンダ支援活動 - 最新情報

(1) 女性の自立のための洋裁訓練

様々な試行錯誤や紆余曲折がありました、女性のための洋裁訓練活動も3年が経ちました。



洋裁訓練所の入り口で受講生と。左端は高美穂 ARC ルワンダ代表。右端は短期ルワンダを訪問していた小峯茂嗣 ARC 事務局長（現運営委員）。



熱心に学ぶ受講生たち。これはアイロンのかけ方の練習。電気アイロンと、炭火を入れるアイロンを使用する。



高ルワンダ代表（左）と訓練所コーディネーターのブランドゥーン。彼女は2000年の訓練所再開以来、ここに勤めている。

ARC が行ってきた女性のための洋裁訓練活動は、訓練所での受注増による自立経営を目標としていたが、現実には少々の利益をあげることは出来るものの、自立経営を達成する事が困難となってきた。また訓練修了生が雇用を見つける機会が少なくなっている事は ARTCF も認識している。この状況は、十分な売り上げを確保出来ない事が理由であり、その背景は、下記のルワンダの社会経済状況に起因するところが大きい。

- (1) 援助物資で送られる中古衣料が大量に安価で市場に出回っている。
- (2) 貧困層が多く購買力が弱い。
- (3) 材料（布など）が高価な輸入品であるため、原価を抑える事が困難で利益をあげにくい。
- (4) 大手からの受注時に不当に買い叩かれる。
- (5) 増税。
- (6) インフォーマルセクター活動への規制。

そこで現在 ARC は、カウンターパートである ARTCF とともに、コミュニティセンターの建設を計画している。訓練部門はそのセンターの一部で継続する可能性を模索している。

そして現在の訓練所のある建物は、修了生の就職機会が少ないという希望を加味し、作業所として使用し、修了生からの会費あるいは収入の一定の割合で徴収する金額によって運営していくことができないかということを検討

している。

現在、今後の事業について、現地事務所と ARTCF で検討を進めているところである。 (報告：小峯茂嗣)

(2) 女性のためのバナナ工芸品製作技術指導

2003 年より、洋裁訓練に引き続き、バナナ工芸品製作技術指導のプロジェクトが始まりました。ARC が販売している「ルワンダのバナナリーフカード」は、この技法で作られています。設備投資がほとんどなく、読み書きや算術ができない人でも技術を修得できるということで、人気が高まっています。

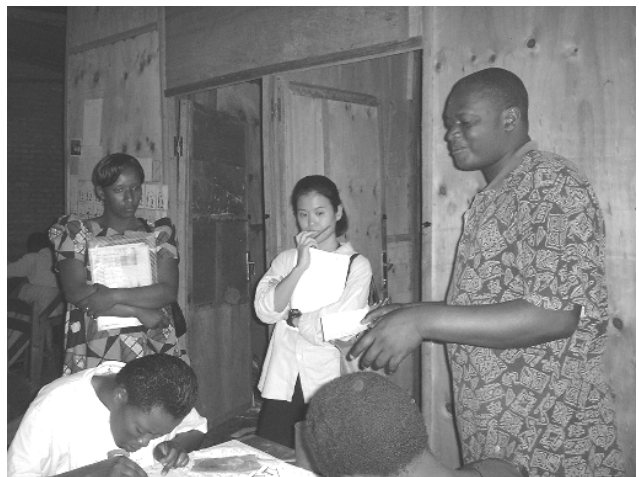
なお ARC ルワンダ事務所インターンとして 2003 年 5 月からルワンダで活動してきた分部真由美は、自費で学費を支払い、ルワンダの女性たちと机を並べて 3 ヶ月間の訓練を受けていました！



訓練所の風景。



バナナ樹皮を一枚一枚切り出すのは根気のいる作業です。きれいに切り出すのは難しく、ていねいに貼り付けるのもとても慎重を期する作業です。そして同じデザインのもを同じようにたくさん作れるようになるには、やはり訓練あるのみ(！)です。



指導をするボシエン(右)。彼は虐殺・内戦前に芸術学校に通っていた画家。内戦がなければ、今頃はアーティストとして活動していたかもしれません。高に訓練の状況を伝えています。



こちらは訓練を終了した生徒さんたち。卒業後も作業をここでを行っています。



訓練所の前で生徒たちと。

2003年12月、ARTCF事務所で、洋裁訓練とバナナ工芸品製作技術指導の修了生の卒業式が行われました。本当はもっと前に行われる予定でした。しかしなんと！12月の小峯事務局長のルワンダ入りを待って、わざわざ予定を繰り下げてくれたのでした。



セレモニーは、まずダンスから始まりました。さっきまでモジモジしていた人も始まるや否や、躍動感溢れるダンスを披露してくれました。



小峯事務局長のスピーチの時間までプログラムに入れてくれました。



セレモニーの一コマ。お芝居です。村に住む女の子が、職業訓練を受けたことによって収入を得ることができ、え

らそうにしていた男どもが驚く...といったものでした。



修了証書の授与。一人一人名前を呼び上げるのは、ARTCF事務局長のジョセフィン(左)。小峯が修了証書を一人一人に手渡しました。



修了生の皆さん。



ひとしきりセレモニーが終わると、おまぢかねのお食事タイム。実はここでドッキリイベントがありました。プログラムには書かれていなかったARTCFから小峯、高へのプレゼント贈呈タイムでした。プレゼントはなんと、訓練所の女性で作った服でした！高が来ているのは、ルワンダの女性のフォーマルドレスです。二人が着替えて出てくると、みんな喝采と大爆笑。日本の多くの方に支えられているARCの活動が、現地でこんなに歓迎され、友人として迎えてもらえた貴重なひと時でした。(報告：小峯茂嗣)

(3) 奨学基金支援

2年目に入った「ARC ルワンダ奨学基金」です。2003年度は105人の孤児に、就学支援をしています。この支援には非常に感謝していただいている反面、この支援を行う過程で、孤児のおかれているさらに深刻な事情が分かってきました。



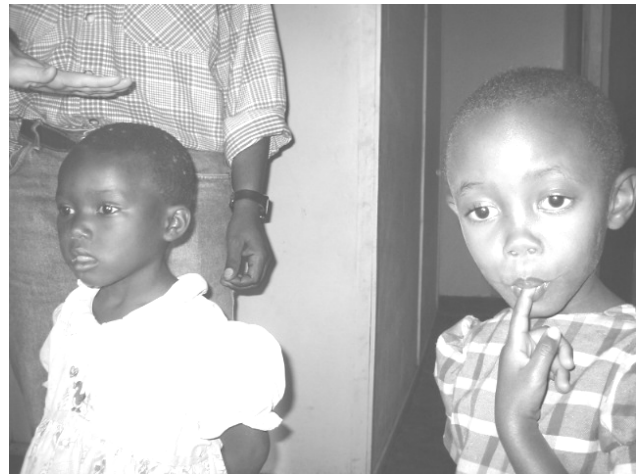
ギシンバ・メモリアル・センターの孤児たち。訪問したムズング(外国人の意味)がめずらしく遠くから見ていました。カメラを向けると、恥ずかしがっていました。



ギシンバには100人以上の孤児がいます。これは洗濯風景。人数が多いので、洗濯も大変です。ちなみにこの時期は雨季で、スコールをさけながら洗濯していました。



お昼寝中の子供たち。何の夢を見るのかな？



ギシンバの孤児たち。



ギシンバ・メモリアル・センターの施設を案内される小峯事務局長。



こちらはAMIDOR孤児院。院長のマリアン(右)が抱いている2人の赤ちゃんは、生まれながらにエイズに感染している。母子感染によるものです。このような子供たちは、生まれて数ヶ月から2歳になるまでの間に死んでしまうとのこと。2人は、母親がエイズで死んだため、この孤児院に来ました。



孤児院の子供たちと手遊びをする小峯事務局長。

「 とんとんとんとんヒゲ爺さん...」。みんなにせがまれて、30回くらいやっていました。



孤児院の子供たちと記念撮影。

2003年12月、小峯事務局長はARCルワンダ奨学基金支援対象者のいるギシンバ・メモリアル・センターとAMIDOR孤児院を訪問しました。両孤児院の設立敬意や状況についてはARCのホームページなどでご存知の方も多いと思いますが、生活面と教育面のニーズは非常に高いと感じました。生活面では、やはり衛生です。水は購入してタンクに蓄えたものを使用していますが、十分ではありません。このたび、公益信託アフリカ支援基金の助成によ

(4) ルワンダの平和構築に関する調査研究

除隊兵士の社会復帰問題

旧政権軍（Ex-FAR）兵士や、その他の武装集団の社会復帰、コンゴからの撤兵後の正規軍兵士の社会復帰は、戦後10年経ったルワンダにとって、社会の安定のための重要な課題となっています。

って、水タンクを設置できることになりました（これはギシンバへのものです）。教育面ですが、有能な教師は高給の私立学校に職を求めがちで、結果的に有能な教員は公立学校から流出してしまう現状があります。もちろん小学校に限ったことではなく、ありとあらゆる分野で、有能な人材は、より高給を得られるポジションや外国へ流出する傾向にあります（ルワンダだけの問題ではありません）。孤児たちは公立学校に通っていますが、彼らのための補習を行う家庭教師も必要とされています。また鉛筆やノートなどの文具も必要とされています。小学校を卒業した後、高等学校に進学したい子供も多いですが、小学校に比べて学費はさらに高額です。子供、とくに孤児の教育向上に関する政策は、政府、自治体ともに優先順位としては低くならざるを得ないのが、ルワンダの現状です。いつかは良くなるかもしれない...とは思いますが、それを待っている間に、子供は大人になってしまいます。「今」という子供の時間の大切さを応援していただきたいと思います。ご協力お願いいたします！



孤児院に設置する予定の水タンクと同じ型のもの。

（報告：小峯茂嗣）

ルワンダ政府除隊・再定住委員会（Rwanda Demobilization and Reintegration Commission: RDRC）

ルワンダ政府除隊・再定住委員会（RDRC）は、1997年に設置された。その後2001年に第一次除隊、2003年に第二次除隊がなされた。

除隊兵士数（2003年10月現在：RDRC資料から作成）

	第一次除隊	第二次除隊	元・武装集団	元・政府軍	合計
Kigali City	4769	3127	161	1941	9998
Gisenyi	1149	1209	767	1775	4900
Kibungo	2299	939	64	1260	4562
Butare	2097	658	219	1006	3980
Kigali-Ngali	2290	848	256	868	4262
Ruhengeri	691	1251	741	898	3581
Gitarama	1360	638	196	1006	3200
Byumba	809	727	150	1100	2786
Umutara	1239	376	14	248	1877
Cyangugu	476	395	191	932	1994
Kibuye	296	339	233	607	1475
Gikongoro	325	196	195	617	1333
Not stated	892	0	465	0	1357
TOTAL (総人口は約 800万人)	18692	10703	3652	12258	45305

RDRCの対応

除隊時の階級に応じて、300,000～600,000 ルワンダフラン(60,000円～120,000円)の一時金を支給している。これをもとに学校や職業訓練を受ければよいと考える。

たしかに就職や開業は困難ではある。もっとも都市部は農村部よりましだと考える。

農村部に帰郷した者に対しての土地の配分はない(国有地はない)。一時金をもとに耕作用地を賃借するなどができるだろう。

プログラムは世銀のローンを受けている。

自転車タクシーの雇用可能性調査

小峯事務局長がRDRCを訪問した際、自転車タクシーによる雇用可能性を打診してみました。ルワンダでは、自転車タクシー(人間や物の移送)をよく目にするからです。しかしその後のルワンダ事務所の調査では、以下の通りでした。

(1)一日の平均収入

キガリ市内 500～1000 ルワンダフラン。

キガリ市外 500 ルワンダフランまたはそれ以下。

もちろん、この収入では家族を養うのに十分ではない。中等教育(初等教育6年+中等教育6年)を受けた雇用者に対する月収の政府基準は23,000ルワンダフランである。これは、自分の家屋や耕作農地を所有していて、さらに電気や水道に多額の料金を払う必要が無い農村部においては十分な額である。しかし、キガリにおいては、給与は全く十分な額ではない。

(2) 自転車タクシーには組合が存在し、そこに登録する必要がある。さらに、税金も徴収される。

(3) 自転車タクシーの価格は品質によるが、新品で25,000～35,000ルワンダフランである。

(1円=約5ルワンダフラン)

除隊兵士の雇用創出と地域との調和については、さらなる検討が必要である。(報告:小峯茂嗣)

ARCは、1994年のルワンダ内戦・虐殺以来、ルワンダの平和再建と国民和解促進を目指して、現地NGOと支援事業を行ってきました。

過去の事業(1994～2000)	現在の事業(2000～)	計画中の事業
現地NGOへ車両・機材提供 現地NGOの会議開催支援 破壊された住宅の修復支援 農村支援(養蜂活動振興) 法曹養成支援(法律書寄贈) 新設校へ机・いす等の寄贈 校舎増設と雇用創出活動 職業訓練校へのマシン寄贈	戦災未亡人の職業訓練活動 (洋裁技術、バナナ工芸品製作技術) 孤児のための奨学支援活動 (ARCルワンダ奨学基金) フェアトレード活動 虐殺裁判調査	コミュニティセンター建設 除隊兵士社会復帰支援 事業評価ミッション派遣 孤児院の衛生状況改善支援

矢内原勝 ARC 会長逝去

2003年11月30日、アフリカ平和再建委員会設立以来、会長職を担っておりました矢内原勝・慶應義塾大学名誉教授が逝去しました。77歳でした。

矢内原会長はアフリカ研究者としての長年にわたる実績を持ち、日本のアフリカ研究の重鎮でありました。亡くなる前年には、念願のルワンダにスタディ・ミッション団長として訪れ、その後も再度のルワンダ渡航を計画していた矢先の訃報でした。ARCは矢内原会長のアフリカを愛する心を引き継ぎ、活動に邁進していく所存です。

矢内原会長のご遺族からは、50万円の寄付をいただきました。矢内原会長が晩年愛したルワンダの支援活動に役立てたいと思っています。

会則にのっとり、ARC運営委員会の承認を得て、大林稔・龍谷大学教授が次期会長に就任することとなりました。ARCも設立10周年を迎え、新たな体制で取り組みたいと思います。今後ともご支援よろしくお願ひいたします。

I N F O R M A T I O N

ARCルワンダ奨学基金へのご支援をお願いいたします

ARC は、94年のルワンダ内戦・虐殺や、エイズで親を失った孤児たちの就学のための「ARCルワンダ奨学基金」という奨学支援活動を行っております。2004年度（新学期は9月から）の奨学金を募集しております！

1口 8000円 - 1口につきルワンダの子ども1人が1年間学校に通えます！

あなたの支援している子どもの写真や直筆の絵があなたのもとに届きます！

年間授業料：約2,000円 文具・制服・カバンなど：約2,500円

その他：送金手数料、フィルム代、現像代、郵送費などの事務経費

* 支援対象となる子どもたちは、現地の孤児支援団体と協議の上、決定しております

事務局ボランティア募集

業務内容

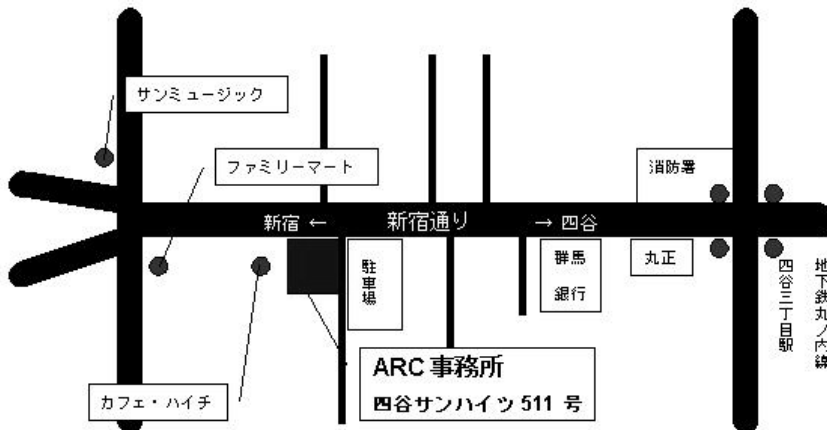
- ・ホームページ更新
- ・勉強会等の企画/運営
- ・物品販売
- ・募金箱設置
- ・パネル展示等の企画の運営
- ・パンフレット等のデザイン

希望する人物

- ・ワード、エクセルの基本的な機能は扱える
- ・事務経験がある（アルバイトも含め）
- ・文章を翻訳できる程度の英語ができる（できれば仏語も）

活動曜日・時間帯：相談に応じます（ただし月曜日～金曜日の10:00～17:00の間で）。定期的に来ていただける方を歓迎いたします！週1日でもOKです！とにかく一度来てみてください！

ARC本部事務局が東京に移転しました！



2004年4月1日から、ARCは事務所を新横浜から四谷に移転いたしました。とはいうものの、事務機器、備品はまだ不足しています。パイプイス、コピー機、パソコン、文房具まで、提供していただけるものがあればご一報ください。

連絡先

TEL/FAX : 03-3351-0892

E-mail : info@arc-japan.org

ご入会・ご寄付のお願い

ARCの活動は、会員の会費に支えられています。会員になると・・・

- ・活動報告が送付されます。
- ・ARC主催の報告会・シンポジウムへ無料参加できます。
- ・会員用メーリングリストへの参加資格を得られます。意見交換、情報交換が可能。
- ・ARCが保有するアフリカ紛争に関する資料の閲覧や、現地の情報を照会できます。
- ・資料請求（無料）は下記連絡先へ、お気軽にお問い合わせください。

FAX 03-3351-0892 E-Mail info@arcjapan.org

振 込 先
郵便振替口座番号 250-0-57833
名義人 アフリカ平和再建委員会

アフリカ平和再建委員会

連続報告会2004

ルワンダ虐殺から10年 - 平和の定着に向けた現状と課題

1994年にルワンダの虐殺と難民問題が発生してから10年になります。その後のルワンダの平和の定着は進んでいるのでしょうか？現地で支援活動を行ってきたARCの支援活動の様態と、ルワンダの平和再建に向けた最新情報をお届けします。

戦乱を乗り越えて、今を生きる人々の姿をお伝えできればと思います。ぜひご参加ください。

会場

環境パートナーシップオフィス EPO 会議室

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 B2F

時間

各回とも 18:30~20:30

資料代

各回 500円 (ARC 会員は無料)

スケジュール

・ 第1回 5月19日(水)

「ジェノサイドから10年 - ルワンダの人々の暮らし」

報告: 分部真由美 ARCルワンダ事務所インターン

・ 第2回 5月25日(火)

「ルワンダプロジェクト報告 - 女性自立支援と戦災孤児の教育支援」

報告: 小峯茂嗣 ARC運営委員 /

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター客員講師 (インストラクター)

・ 第3回 5月26日(水)

「除隊兵士と帰還難民の再定住に向けて - ルワンダ政府の取り組みと課題」

報告: 増古剛久 ARC 研究員 / 一橋大学大学院修士課程

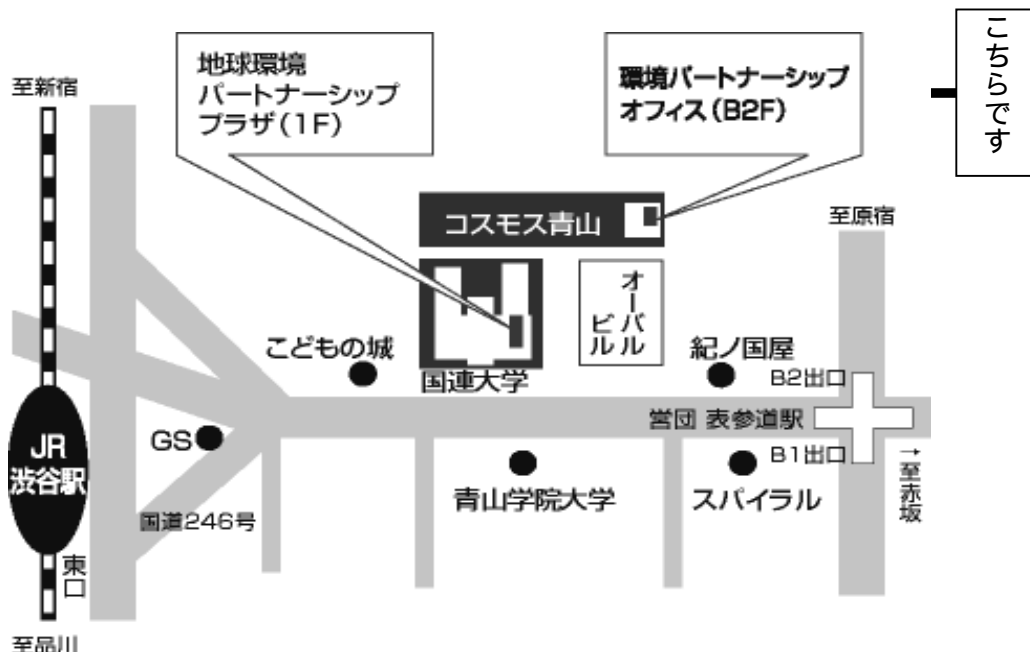
・ 第4回 5月28日(金)

「ポスト・ジェノサイドの正義と和解 - ガチャチャ裁判調査報告」

報告: 小峯茂嗣 ARC運営委員 /

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター客員講師 (インストラクター)

会場案内





アフリカ平和再建委員会 (Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN)

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1四谷サンハイツ511

Tel/Fax : 03-3351-0892 E-mail : info@arc-japan.org

ホームページ <http://www.arc-japan.org>